

海上保安庁によるライフジャケット着用推進の取組み

～海難等による死亡・行方不明者の減少を目指して～

『自己救命策確保3つの基本』

海に落ちても沈まない
ライフジャケット
の着用

1



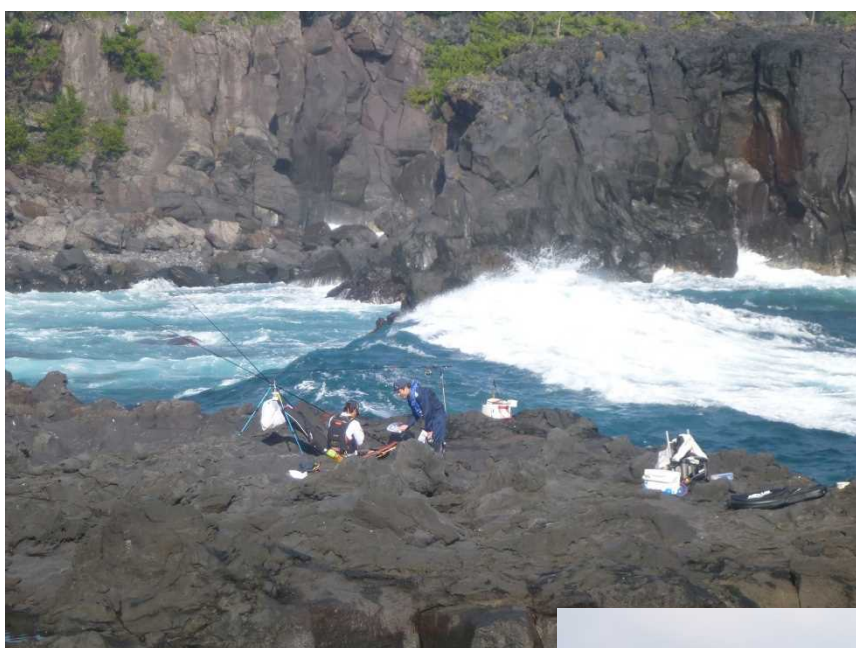
水中でも大丈夫(防水パックの使用)
携帯電話の携行

2



緊急通報用電話番号
118番の活用

3



釣り人に対する安全指導



安全講習会



地元メディア（ラジオ）を活用した周知啓発活動

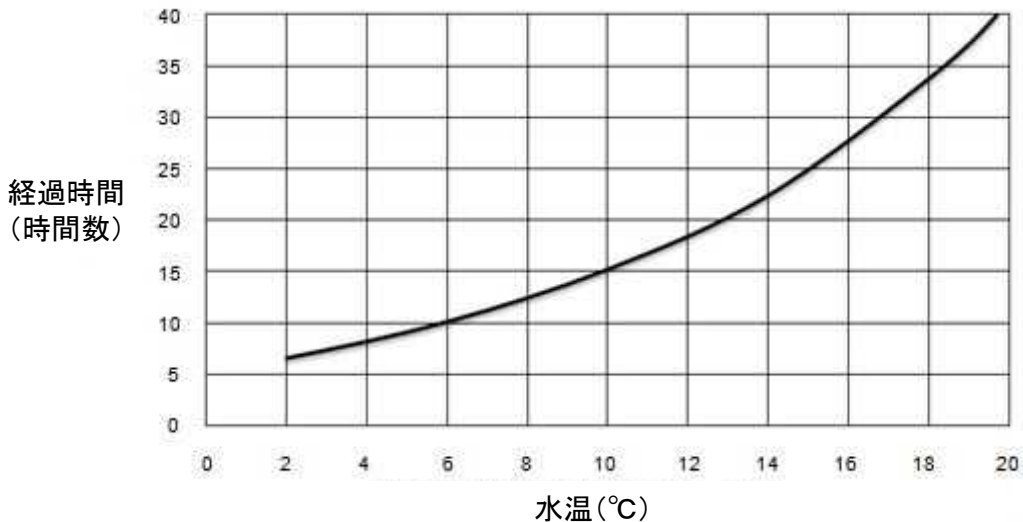


L G Lの活動支援

海上保安庁によるライフジャケット着用推進の取組み

～海難等による死亡・行方不明者の減少を目指して～

海面に浮いて、救助を待っていることが肝要
ライフジャケットの着用により体力の維持→生存可能性向上



【通常の衣服を着ている者の海中における生存時間の現実的な上限を示す図】

(出典)国際航空海上捜索救助マニュアル

ライフジャケットの正しい着用を!!

- ポイント: ① 体への密着
② 十分な浮力の確保

※ライフジャケットにはさまざまなタイプがある

☆タイプ別の注意点

○固定型→股紐があるタイプは落水時脱げないように股紐も結ぶ

○膨張型→タイプの確認(自動膨張と手動膨張)

ポンベの確認

- ・ガスが十分に充填されているか(さびて漏れていないか)
- ・有効期限内であるか

ライフジャケット着用の奏功事例

ミニボートに一人で乗船し釣りをしていた男性が、横波を受け船が転覆したことにより、海中転落した。同男性はライフジャケットを着用しており、転覆したミニボートに掴まって漂流しながら防水パックに入った自身の携帯電話で118番通報にて救助を要請し、事故から約40分後に無事救助された。